

医科研究会 日医生涯教育制度認定講座(74:1.5)

高血圧管理・治療ガイドライン2025の 降圧目標値は適切か 一般医家の視点から



江口 和男 先生

■さいたま赤十字病院総合臨床内科 部長

プロフィール

1987年佐賀西高校、1993年自治医科大学卒業。佐賀県立病院好生館にて2年間の初期研修後、鎮西町馬渡島診療所、唐津赤十字病院内科、西有田共立病院内科に勤務。馬渡島診療所勤務の時に自治医科大学循環器内科(島田和幸教授)の研究生となり、臨床高血圧の研究を開始。2002年から自治医科大学循環器内科に戻り、さらに研究を続け、2005年から2年間米国コロンビア大学(Thomas G. Pickering教授)の下で研究を行った。帰国後は循環器内科の臨床、高血圧の研究、医学教育などを行い、2016年より自治医科大学卒後臨床研修センター/内科学講座循環器内科学部門の学内教授となった。2019年4月から現職。

◆抄録

昨年日本高血圧学会ガイドラインが改訂され、「血圧管理・治療ガイドライン 2025」と名称も変更された。高血圧の基準は従来通り診察室血圧 ≥ 140 mmHg かつ / または ≥ 90 mmHg、家庭血圧 ≥ 135 mmHg かつ / または ≥ 85 mmHg であるが、降圧目標は年齢、病態、合併症にかかわらず原則的に診察室血圧130/80mmHg未滿、家庭血圧は125/75mmHg未滿となった。超高齢者も含めて、積極的治療の心血管イベント抑制効果が支持されている一方、積極的降圧治療に伴う有害事象は有意に増えるため個別モニタリングが必要である。本ガイドラインにて、白衣高血圧について、非高血圧と比較した場合には、白衣高血圧は将来的な脳心血管病イベント発生リスクが高いため、注意深いフォローが必要であると述べられている。しかし、具体的にどうフォローしていくのかについては記載がない。白衣高血圧の診断は家庭血圧のみでは不十分な場合があり、自由行動下血圧測定(ABPM)まで行うことが望ましい。高齢者や著しく外来血圧が高い白衣高血圧症例はリスクが高い。妊婦の白衣高血圧の評価はとりわけ重要であり、ABPMまで検討すべきである。

日時

6月26日(金) 19:30~21:00

場所

アバンセ第3研修室+Zoom

佐賀市天神3丁目2-11 TEL 0952-26-0011

*参加対象/医師、スタッフ

参加費

無料

注意
事項

- ①会場参加(アバンセ)でもオンライン配信(Zoom)でも、どちらでも参加できます。
- ②参加は事前申し込みが必要です。定員になり次第締め切ります。

※申込方法等は、裏面をご確認ください。

佐賀県保険医協会

☎(0952)29-1933 FAX 23-5218

E-mail: hoken-i@star.saganet.ne.jp



LINE公式アカウント
友達募集中!

6月26日(金) 医科研究会 参加申込書

演題: 高血圧管理・治療ガイドライン2025の降圧目標値は適切か
一般医家の視点から

日時: 6月26日(金) 19:30~21:00

講師: 江口 和男 先生(さいたま赤十字病院総合臨床内科 部長)

(1) WEBで参加される場合

- ・ 右記QRコードまたは短縮URLからお申し込みください。
佐賀県保険医協会ホームページの申込フォームからお申し込み頂けます。
- ・ お申し込み後、Zoomから確認メールが届いたら登録完了です。



<https://x.gd/0626ketsuatsu>

(2) 会場で参加される場合

以下の欄にご記載の上、FAX、メールにてお申し込みください。
メールの場合は「6/26 会場参加希望」と書いてください。

佐賀県保険医協会 事務局 行

FAX : 0952-23-5218

E-Mail : hoken-i@star.saganet.ne.jp

医療機関名	
市町村名	
電話番号	

参加者氏名(フルネーム)	職種
	医師 (医師会会員 ・ 医師会非会員) 看護職 ・ その他()
	医師 (医師会会員 ・ 医師会非会員) 看護職 ・ その他()
	医師 (医師会会員 ・ 医師会非会員) 看護職 ・ その他()